

日本におけるデジタル化の状況

中田 陸

2025 年 6 月 30 日

1 ブロードバンドの整備状況

OECD によるブロードバンド回線の普及に関する調査 [1] によると、図 1 に示すように、日本における 100 人あたりの光ファイバー回線の加入者数は 29.0 で、韓国、スウェーデン、ノルウェーに続いて 4 位になっている。

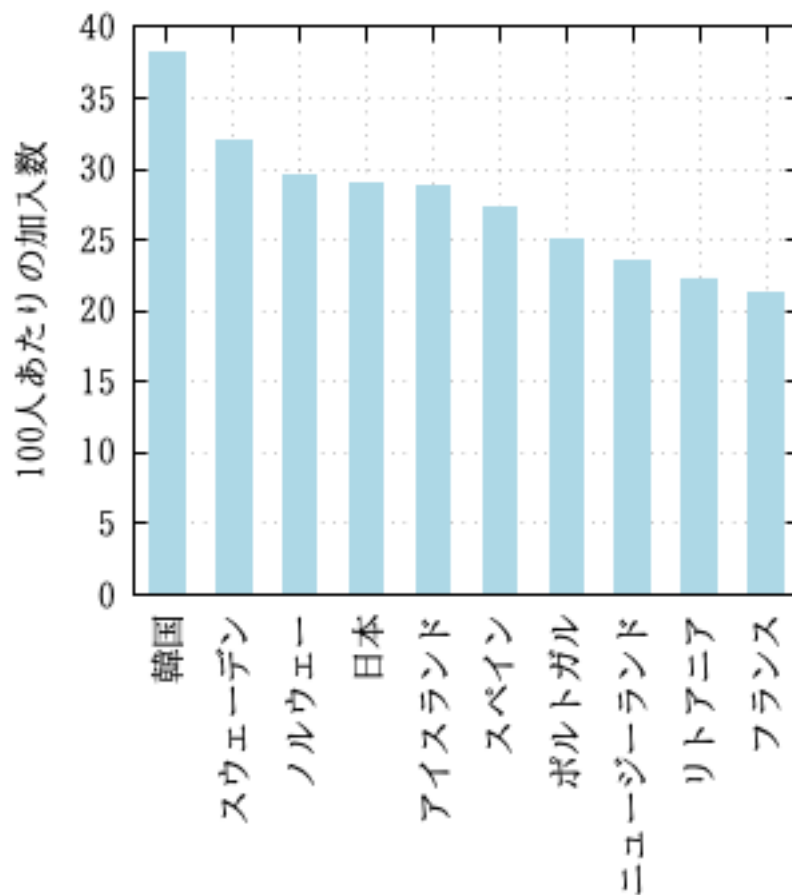


図 1: 光ファイバー回線の加入者数 (100 人あたり)

2 デジタル競争力ランキング

国際経営開発研究所 (IMD) の調査 [2] によると、表 1 に示すように、日本のデジタル競争力のランキングは調査対象の 64 カ国中、総合で 28 位、知識分野で 25 位となっている。

表 1: デジタル競争力ランキング (64 カ国中)

国	総合	知識
米国	1 位	3 位
香港	2 位	5 位
スウェーデン	3 位	2 位
デンマーク	4 位	8 位
シンガポール	5 位	4 位
韓国	12 位	15 位
中国	15 位	6 位
日本	28 位	25 位

3 考察

- 日本のブロードバンド普及率は高水準にある - OECD 諸国の中で 100 人あたり約 32-33 の光ファイバー回線数を記録しており、デジタルインフラの基盤は充実している状況が読み取れます。
- デジタル競争力と基盤整備に乖離がある - ブロードバンド普及率は上位レベルにあるにも関わらず、IMD のデジタル競争力ランキングでは 28 位と中位に留まっており、インフラ以外の要因が競争力を制約している可能性があります。
- アジア諸国間での競争力格差が顕著 - 韓国 (12 位)、中国 (15 位) と比較して日本 (28 位) は下位にあり、同じアジア地域でもデジタル活用や競争力に大きな差が生じています。
- 北欧諸国のデジタル競争力が突出している - デンマーク (1 位)、スウェーデン (3 位) など北欧諸国が上位を占めており、これらの国々のデジタル政策や社会システムが参考になる可能性があります。
- 日本のデジタル化は量的整備から質的活用への転換点にある - 物理的なインフラは整備されているものの、それを効果的に活用したイノベーションや競争力向上に課題があることが示唆されており、デジタル化戦略の見直しが必要と考えられます。

参考文献

- [1] OECD. Broadband Portal. <https://www.oecd.org/digital/broadband/broadband-statistics/>, 2022.
- [2] IMD. IMD world digital competitiveness ranking. <https://www.imd.org/centers/world-competitiveness-center/rankings/world-digital-competitiveness/>, 2021.